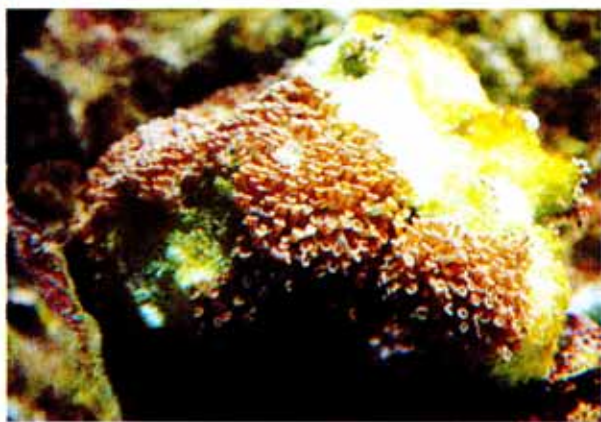


ニホンアワサンゴ

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



テーブルサンゴやエダサンゴなどのサンゴ類は、イシサンゴと呼ばれるが、その仲間は約1500種が知られており、多様である。今回はその中から、和歌山など黒潮や対馬暖流沿岸の本州にのみ生息するイシサンゴの一種ニホンアワサンゴを紹介する。名前が示す通り、日本固有種とされてきたが、近年、韓国の南端で生息が確認された。

ニホンアワサンゴは、他の多くのイシサンゴの種類とは異なり、ポリプが引っ込むと石灰質の骨格が現れるニホンアワサンゴ(水槽番号201)

海に咲くカスミソウ

61 深見 裕伸

なる。インキンチャク様のポリプと呼ばれる個体が、数センチから長いもので5センチ近くも骨格から伸びており、そのようなポリプが何百と集まっているのだ。一見したところではイシサンゴの仲間に見えない。しかし、手で触れると、それらのポリプが石灰質の骨格の中に引っ込むため、こつこつとしたイシサンゴらしい姿になる。

ポリプは、先端の上部の中心部が口で、その周りに12本の触手がある。この12という数は、この種類の特徴で、似たような種にハナガササンゴというのがあるが、こちらは触手が24本なので容易に判別できる。

このニホンアワサンゴのポリプ、見た目に非常に美しい。淡い緑色のものから桃色のものもある。白浜水族館で展示しているものは、触手だけが白く、そのほかは透明だが体内に共生している福虫藻により薄く茶色がかっている。全体的に、はかない感じがして海のカスミソウのようである。

(京都大学助教)